

9月「Heimat」 アントニア・シュルト

1. コラムの提出日が近づいてくると、今度何について書こうかと考え始めます。撮った写真を見たり、日本とドイツの文化や言語の違いなどを考えたりすると、アイデアが浮かんできます。アイデアと言っても、本当はまだあまり形になっていない気持ちや疑問が、ほとんどの記事の土台になります。考えれば考えるほど、はっきり表現できるようになります。最近では、「故郷」についてや、身元と文化的なアイデンティティや母語と文化の相関といったことをよく考えています。ある意味、在住外国人の当然の思考かもしれませんが、その気持ちをもう少し追求していきたいと思ったのはつい最近のことです。

ドイツ語で「Heimat」（ハイマート）という言葉があります。日本語の意味に近い言葉は故郷だと思いますが、ドイツ語の「Heimat」の場合は複数の意味を持っています。



2. 「Heimat」というと、もちろん生まれ育った地域を示しますが、だいたいこの言葉を使うのは、話している人がその場所に対して感じていることを強調したいからです。人によって解釈の違いもあって、説明できない部分もありますが、「Heimat」とは実家の匂い、お母さんの料理、地域の方言、ぼーっとして歩いても道に迷わないなど、生まれた場所に限らず、その個人の心が癒されるような所です。

私は北ドイツのキール市という町に生まれ育ったので、幼い頃から若者時代にかけて、友達や両親につながる嬉しい思い出はたくさんあるので、きっと「Heimat」と言えるでしょうが、

「Heimweh」（ハイムヴェ、郷愁）というのが心の中で探していても、今は見つけられません。

長く会っていない友達や家族に会いたいとか、ここ日本では食べられない食事が食べたいといった気持ちのように、どうしても帰りたいとは今の時点であまり思いません。

3. 「お国はどちらですか？」の次によくくるのは「いつ帰られますか？」という質問ですが、気軽に返すとしたら「まだ決めていません。」と言うかもしれません。実際には、帰ることより、次にどこに行くかについて考えています。時代の変更にも関係があると思いますが、現代の30代の人達は安定している暮らしというより刺激の豊かな人生を目指しているような気がします。周りをみると、仕事を中心とした人生ではなく、自分に合う自由な生き方を望む人が増えてきていると思います。ポストモダン社会の一つの影響のではないかと思います。私も少しその傾向があるかもしれません。長期目標を言えば、自己啓発にあると思います。ちなみに、興味を持っている分野の知識を深めたり、新しいスキルを身に付けたり、犬を連れて山に行ったり、写真を撮ったりして、自由でいたいと思います。それはドイツより日本でできると感じていますので、とりあえず帰る予定はありません。